



令和元年 9月発行 第40号
発行元：福生市立中央図書館

福生市熊川 850-1
TEL：042-553-3111
https://www.lib.fussa.tokyo.jp/



『檸檬』

梶井基次郎／著
角川春樹事務所（二〇一一年）

「私」は果物店で珍しく出ている檸檬を一つ買った。それから長い間街を歩いていた。私は非常に幸福であった。歩いた後に立ったのは丸善という店の前だった。

しかし、以前はあんなに私をひきつけた画本が憂鬱になってしまった。そのとき、私は袂の中の檸檬を思い出して…。

この作品は梶井基次郎の代表作である短編小説。少しの隙間時間に読んでみてはいかがでしょう？



『神さまのいる書店 まほろばの夏』

三萩せんや／著
KADOKAWA（二〇一五年）

本の中にしか居場所がないと感じていた少女、ヨミ。
ある時、ヨミの前に不思議な書店が現れる。その名は『まほろば屋書店』。恐る恐るその扉を開けてみれば、そこには動植物であふれた空間が広がっていた！

驚いたものの、ヨミはまほろば屋書店でバイトとして働くことに。天然腹黒の店長、ナラブと、人の型を取るまほろ本、サクヤなど、様々な本や人に支えられ、ヨミは成長していく。

ところで、この書店には神様がいて、ひっそりと姿を現す幻想的な書店の名前は、『まほろば屋書店』。魂の宿る生きた本…まほろ本

と、不思議を求めてやって来る読者が出会う場所。

不思議なまほろ本たちがあなたとの出会いを待っている…かもしれない。



『きつねのはなし』

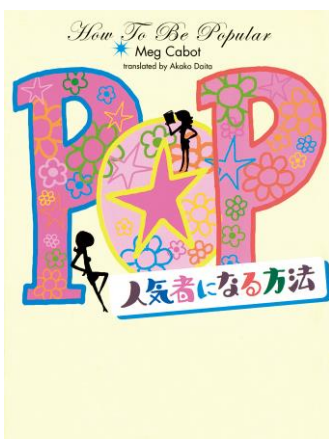
森見登美彦／著
新潮社（二〇〇九年）

森見登美彦さんは、『太陽の塔』や『夜は短し歩けよ乙女』で賞をとるなど、著名な作家さんです。

森見さんの作品の中でとくに私がおすすめしたいのが、『きつねのはなし』です。ほかの作品を読んだことがあればわかるかと思いますが、森さんの文章は少し硬く、独特で面白いですが、全体として静かで不気味な雰囲気短編集です。

表題作『きつねのはなし』では、京都の古道具屋でアルバイトを始めた大学生が主人公です。客の一人である天城という男と奇妙な取引をす

ることになり、だんだんと彼の思惑に絡めとられていきます。ホラーと言うより、怪談と言ったほうが似合います。
全部で4話が収録されていて、キワードが少しずつ繋がっていくというつくりになっています。繰り返して読んでいくと、全貌がわかるかもしれません。ぜひ、『きつねのはなし』を読んでみてください！



『人気者になる方法』

メグ・キャボット／作
代田亜香子／訳
理論社（二〇〇八年）

「ステフ・ランドリーなことはしないで」間抜けなことやおかしなことをやらすこと。ステフ・ランドリーは小学6年生のとき、学校で一番人気の女の子の白いデニムのミニスカートに超特大カップ入りチェリーコークをこぼした。

それから復讐のために、「ステフ・ランドリーなことしないで」というフレーズはこぼされた本人によって広められた。ステフが高校1年の今、そのフレーズは町中にも定着している。
そんなときステフは幼馴染のジェイソンのおばあちゃんから人気者になるための本をもらったのだ。あんなフレーズが広められ、クラスカーストは最底辺だったステフは高校2年生になると同時に人気者への道

を踏むと決心する。

この本では、人気者になりたい主人公が新しい自分に変わって色々なことに挑戦していきます。

この本を読んで、とくに若い人に挑戦する姿勢を学んでほしいと思います。



『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティー／著
青木久恵／訳
早川書房（二〇〇七年）

なぞの人物に招待され、兵隊島という孤島の旅行に集まった、十人の男女。その十人は年齢も職業もばらばら。そんな彼らをおそう、おそろしい殺人ゲームが幕をあける。

旅行に飾られていた童謡の歌詞とおりのとおりにつぎつぎ人が殺されていく。島の外からの接触は不可能。島の中には十人以外誰もいない。殺人者はこの中にあるのか…。

そうこうしている間にも被害者は増えていく。犯人はいったい誰なのか。

好きなところは、動揺になぞって人が殺されていくことです。それが不気味さを出していると思います！

推理系ホラーだと思っているので、そういう本が好き方にはオススメです！

中央図書館からの お知らせ★

今回で「いろいろは新聞」の発行が四十号目を迎えました！これまで、数多くの中学生、高校生の方々に、いろいろは新聞製作に携わっていただきまして。ここにお礼申し上げます。

さて、今年「令和」の年号に変わりましたね。この新聞の読者さんは、初めて年号が変わった経験をしたと思います。いかがでしたか。

令和という年号名を見事予想していた読者さんはいたのでしょいか…？

このたび、中央図書館の中高生向け（ヤングアダルト）コーナーに、「推し本」コーナーを設けました。

これは、市内中学・高等学校で職場体験やボランティアにきた生徒さんたちに、自分のおすすめする本の紹介POPを書いてもらい、その本を展示しています。

みなさんと同世代の人がおすすめしている本なので、きつと気になる本が見つかると思いますよ！

ぜひ、中央図書館に足を運んでみてください。